

# 樹木と絵画の交差点

## 第1回 ～セザンヌとマツ～

ポール・セザンヌ（1839-1906）は、19世紀フランスの画家です。同時代の印象派の画家たちと共に活動していた時期もありましたが、ほどなく距離を置き、自らの故郷である南フランスのエクス＝アン＝プロヴァンスでひとり絵画の探求を続けました。20世紀の美術に多大な影響を与え、後進の画家からは「近代絵画の父」、「絵画の革命児」とも呼ばれています。セザンヌの絵のモチーフには、ごくありふれた日常的なものが選ばれています。例えばりんごや、生まれ故郷の山（サント＝ヴィクトワール山）、妻、近所に住む庭師…。それらはセザンヌにとって繰り返し描かれるべき愛着のあるものでした。

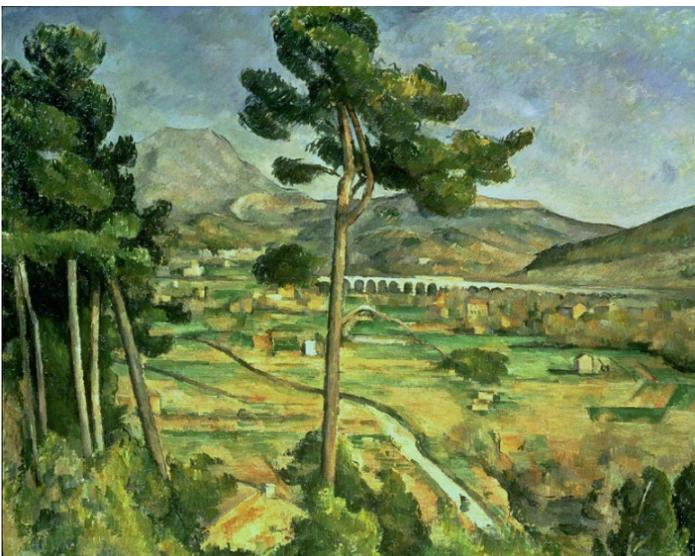


ポール・セザンヌ（1839-1906）

「帽子をかぶった自画像」(部分) (1890-94年) ブリジストン美術館蔵  
故郷で絵を描き続け、「わたしはりんごひとつでパリを驚かせたいのです」と語った。

## マツに託したもの

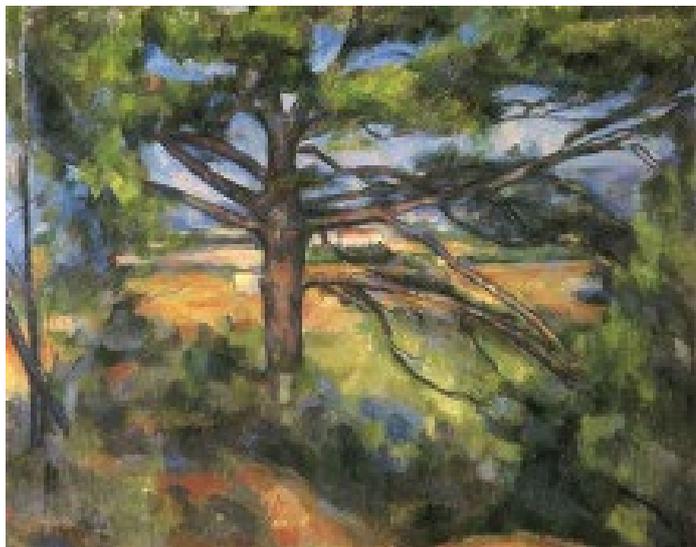
セザンヌの風景画の中では樹木が、とりわけマツが重要な役割を果たしているようです。



80点以上もあるといわれるサント＝ヴィクトワール山の作品の中でも、この絵は中央のマツの大木が主人公のような作品です。マツの葉の細かいタッチの震えが大空や山に共鳴して、画面の隅々まで広がっていくようです。

「人々に自然を永遠に味あわせなければならぬ」。絵のモチーフについてこう語ったセザンヌが繰り返し描いたマツには、セザンヌの思いや思想が託されているのかもしれない。

サント＝ヴィクトワール山（1882-85年頃）メトロポリタン美術館蔵



セザンヌはサント=ヴィクトワール山の連作で画面の抽象化を推し進めましたが、この作品でも幾何学的構成の試みが見られます。画面中央左寄りにマツの幹がどっしりと構え、画面に重みを与えます。そこから枝が放射状に画面の隅まで伸びて行って、画面右下でマツの葉が筆触と混じって抽象的な画面に変容していきます。

大きな松の木と赤い大地（1895-97年頃） エルミターージュ美術館蔵

## フランスカイガンショウについて

これらの作品に描かれたマツはクロマツやアカマツの特徴とは少し違うようです。フランス南西部のポルドー地方の風土に育つマツといえば「フランス海岸松（フランスカイガンショウ）」*Pinus pinaster* であるかもしれませんが、あるいはセザンヌの自宅の庭園に植えてあったと言われる「アレップマツ」*Pinus halepensis* なのかもしれません。

フランスカイガンショウの自然分布はヨーロッパやアフリカの地中海一帯です。特にフランスでは防風林や製材用として育種が盛んに行われています。一方では、自然分布地以外の土地で森林等に侵入・定着した結果、火災の起こり方や水流に影響し、多くの動物の生息環境を変化させることとなったとされ、国際自然保護連合（IUCN）の「世界の侵略的外来種ワースト100」に指定されています。日本では、環境省「要注意外来生物リスト」に入っています。そして松枯れを引き起こす「マツノザイセンチュウ」に対する抵抗性が大変弱い樹種です。日本のアカマツやクロマツと同じように、ヨーロッパでもマツノザイセンチュウによる松枯れ被害が拡大しています。

樹皮からの抽出物にはポリフェノール成分が含まれ、抗酸化作用があるとされています。抽出原料がサプリメントや化粧品として加工されるなど、商品化されたものがここ最近注目を浴びています。

### 《参考文献》

「展覧会カタログ セザンヌーパリとプロヴァンス」国立新美術館 2012年

「材木育種情報 No.5」独立行政法人 森林総合研究所 材木育種センター 2011年

### 《参考URL》

「世界最悪の侵略的外来種100種」IUCN ホームページ グローバル外来種データベース内

[http://www.iucngisd.org/gisd/100\\_worst.php](http://www.iucngisd.org/gisd/100_worst.php) 70. ピナス・ピナスター（参照 2022-7-16）

「要注意外来生物リスト」環境省 ホームページ

<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist/gairailist/bylist2/ref05.pdf>（参照 2022-7-16）

「松枯れのしくみ」国立研究開発法人 森林総合研究所 四国支所 ホームページ

[http://www.ffpri-skk.affrc.go.jp/matu/qmatu\\_matukare.html](http://www.ffpri-skk.affrc.go.jp/matu/qmatu_matukare.html)（参照 2022-7-16）